モデル事業の例

国土交通省

■ 東京港　芝浦地区

◆概要

近年、運河の物流利用が減少。周辺の土地利用がオフィスやマンションなどの都市的利用が増加

→「運河ルネッサンス※」の推進

※ 運河やその周辺の水辺空間を観光・景観・回遊性などの特性を活かし魅力ある空間として再生させる取り組み

→取組みの一つとして、カヌーやプレジャーボートなどによる運河利用の可能性を検討

◆課題

・運河の新たな利用方法に関するニーズの把握

・水域利用者の安全確保の方法の検討　等

社会実験（運河ボート体験会）を通じて、上記課題の検討を実施

◆社会実験の実施～運河ボート体験会

芝浦地区の運河にて、小学生を始めとする地元の方々を対象に、ボート体験会を実施。

なお、カヌーやプレジャーボート等による運河利用は従来にない利用のため、屋形船事業者と調整の上での利用範囲の設定や参加者に対するライフジャケットの着用等、に着目して実施

運河ボート体験会風景

◆社会実験を通した課題の検証

・運河における新たな利用（レクリエーション等）ニーズの高まり

・一般の人々は水域レジャーに対する認識・経験が未習熟

・運河を利用するにあたっての一般的なルール作りが必要

↓

利用ルールの十分な検証と、普及・啓発や実行性を担保する仕組みづくりが必要

■ 小樽港

◆概要

近年、諸外国との物流形態の変化により、原木での輸入が殆ど皆無。港の顔となっている、貯木場の再活用を模索

→隣接するマリーナと連携した新たな利活用の推進

→マリーナを中核にマリンレジャーの普及を中心に海洋体験の場として活用するゾーニングを検討

◆課題

・マリンレジャーを活用した地域活性化への方策

・水域利用にあたり漁業関係者等との調整

◆モデル事業を通した課題の検証

・海洋性レクリエーション振興の場として活用することが有効

・ゾーニングや一定の利用ルール構築による秩序ある利用が必要

・地区全体の活性化に向けて陸側及び海側からの動線確保が必要

◆検討結果を踏まえた貯木場の活用

☆貴重な静穏水域を活かし、マリンレジャーの楽しさを伝えるための地域一体型の各種親水イベントの開催

■マリンレジャー体験イベントの開催

・ゴムボート、モーターボート、ヨット、水上バイク等各種ボートの乗船体験

・隣接するマリーナ、地域の関係機関と連携した地域イベントを実施

■大型親水フロートの設置

・親水イベント、海洋教育の場として活躍

手作りいかだ大会

ヨット体験乗船

PWC体験乗船